

平成 28 年度 第 5 回大阪地方会 活動報告

平成 29 年 2 月 25 日（土）

於：吹田徳洲会病院 4 階大会議室

平成 29 年 2 月 25 日（土）吹田徳洲会病院 4 階大会議室にて、平成 28 年度 第 5 回大阪地方会を開催致しました。当日はお天気にも恵まれ、広い会場ではありましたが多くの参加者の方の熱気に満たされていました。また、東は静岡県、西は山口県と遠方からお越しいただき、会員 26 名 非会員 64 名、合計 90 名の参加となりました。世話人一同、感謝申し上げます。



初めに開催病院である吹田徳洲会病院副院長の北田文則先生より開会のご挨拶をいただきました。昨年 4 月の診療報酬改定で大学病院でも医師事務作業補助者の配置が認められたこと、現在、医師事務作業補助者は国家資格を有しないため、質の向上・維持が難しくスキルに差があること、その解決のためには、資格化をして、どのような人が認められるべきか厳しく審査を行うことが望ましいことが述べられ、当研究会で実務者の質を高めるために活発的な活動を行って欲しいとの激励をいただきました。



続いて、『最新の乳がん診療について』と題して、吹田徳洲会病院 乳腺センター長の藤本泰久先生にご講演いただきました。藤本先生は国内だけではなくネパールにおいてもピンクリボン活動に携われ、乳がんでの死亡を減らすための乳がん検診の重要性を広められておられます。

欧米ではマンモグラフィーが検診に導入されて以降、死亡率が低下しているが、日本の死亡率は低下していない、これは日本での検診の受診率の低さが原因と考えられ、国の課題であること。通常乳がん検診は、マンモグラフィーが一般的だが、それだけでは早期発見に至らないがんもあり、近年では超音波検査との併用が推奨されているとのことでした。また、それぞれの検査の違いについてもご説明いただきました。

資料も非常に詳しく作っていただき、それに沿った理解しやすいご講演であり、参加者の皆さんも熱心に聞き入っておられました。



続いてのご講演は、『コーチング心理学を使った医師とのコミュニケーション術』と題して有限責任監査法人トーマツの星剛史先生にご講演いただきました。星先生のご講演は参加型のもので、最初に自分の性格を知ることから始まりました。配布された資料で自身に当てはまる項目を色別に分類して、会場は4つのグループに席替えを行いました。参加者の皆様は自身の性格を再認識するとともに、意外な一面にも気づくことができました。配布資料には、タイプ別のお勧めコミュニケーション方法が記載されており、担当する医師の性格傾向を把握して接することで、良好なコミュニケーションを築きやすくなるので、是非試してみてくださいとのことでした。皆さまには、とても楽しく学んでいただき、医師との良好な関係性を築いていただくヒントをたくさん持ち帰っていただけたと思います。

最後は、平成28年度の最後の大阪地方会のため、矢口理事長にもご参加いただき茶話会を開催してご挨拶をいただきました。当研究会では全国各地で様々な地方会などを開催しているので、多くの会にご参加いただきたい。そのような場で知識を習得、医師事務作業補助者同士の情報交換を行い、高いモチベーションを維持して院内での医師事務



作業補助者の役割を意識しながら業務についていただきたい。医師事務作業補助者を取り巻く環境を整えることが高いモチベーション維持に繋がり、結果として病院運営の全体最適に貢献できるように、医師事務作業補助者のスキルアップや情報共有の場の提供をできる研究会活動を来年度も行っていくので、皆様には是非ご支援をいただきたいとのことでした。そして今年度の大阪地方会に全てご参加いただいた方への理事長賞と、大阪府支部恒例のジャンケン支部長賞をお渡しいただきました。



最後に、大阪府支部の西川支部長より、平成 28 年度の大阪地方会にご参加いただいた全ての方に感謝の気持ちが述べられ、今後も医師事務作業補助業務の発展、職種の確立のために、矢口理事長を中心に力を合わせて活動していきたいと考えているので、皆様からのご支援、ご賛同を心よりお待ちしておりますとのことでした。

今後も参加者の皆さんの業務に活かせるような講演や勉強会を企画し、医師事務作業補助の更なる成長と、認知度向上とともに資格制度を目指しますので、ご支援の程よろしくお願ひ申し上げます。

最後になりましたが、今回の地方会にご参加いただきました皆様、準備段階からご協力いただきました全ての皆様方に、この場をお借りして心よりお礼申し上げます。

NPO 日本医師事務作業補助研究会
大阪府支部 副支部長 事務局
府中病院 堀田 恵